

令和元年度 第1回生駒市環境審議会 会議録

1 開催日時 令和2年1月30日(木) 10時00分～12時00分

2 開催場所 生駒市役所 4階 403・404会議室

3 審議事項

(1) 会長及び副会長の選任について

(2) 環境白書について

(3) その他

(以下、敬称略)

4 会議出席者

会長 水谷知生

副会長 河瀬玲奈

委員 片山誠也 塩見牧子 藤澤清二 上武敏一 寺田信弘 池田憲央

竹本和靖 矢田千鶴子 楠正志 当麻潔 杉本稔 田中純子

事務局 奥田吉伸 市民部長

尾山隆啓 地域活力創生部長

奥田和久 環境保全課長

竹本好文 環境モデル都市推進課長

木戸勇 環境保全課課長補佐

大窪奈都子 環境モデル都市推進課課長補佐

北里直之 環境保全課保全係長

大熊啓文 環境モデル都市推進課地球温暖化対策係長

地頭江祐希 環境モデル都市推進課地球温暖化対策係員

10時00分 開会

5 審議内容

(1) 開会

(2) 地域活力創生部長あいさつ

近年の地球環境は変動が非常に激しく不安定で温暖化も進行している。また異常気象は急速に深刻化している状況にある。生駒市においては、平成21年に第2次生駒市環境基本計画を10年計画で策定し、その後平成31年3月には持続可能な世界を実現する17のゴール169のターゲットから構成されているSDGsの理念を踏まえて第3次生駒市環境基本計画を策定した。また、昨年7月にSDGs未来都市に選定されると共に、11月には国の呼びかけに応じて、ゼロカーボンシティ実現に向けた取り組みを進めることを表明した。

この環境審議会では、環境白書などについて審議いただくが、忌憚のない意見をいただきたい、との発言。

(3) 委員紹介

事務局より紹介

(4) 審議事項

以下、発言要旨。

事務局

＜委嘱後初めての会議につき、事務局で議事を進行＞

本日の会議の成立について報告。全委員14名の出席により会議は成立。

傍聴者は3名。

案件1「会長及び副会長の選任について」審議を宣告。

意見を求める発言。

矢田千鶴子委員

会長に水谷委員、副会長に河瀬委員を推薦する、との発言。

各委員

異議なし、との発言。

事務局

会長に水谷委員、副会長に河瀬委員を確認。

＜会長、副会長席に移動、着席＞

事務局

会長よりあいさつをいただきたい、との発言。

水谷知生会長

この審議会は前の期から務めており、非常に活発な意見が出されていたと感じていた。私は副会長として居たが会長は大変だなと思っていた。私とその任を受けさせていただくので、活発な意見を出して頂き、円滑な審議に協力いただきたい、との発言。

案件2「環境白書について」審議を宣告。

事務局に説明を求める発言。

事務局

事前に配布した資料1「生駒市の環境(令和元年度版)」の全体構成、新しい取組や主な項目を中心に説明。

水谷知生会長

委員からの質問、意見を求める発言。

当麻潔委員

1点目、7ページ〔参考：第2次生駒市環境基本計画〕とあるが、前ページで「第3次環境基本計画を策定した」とあるので、ここは、第3次環境基本計画を掲載するべきではないか。同様に9ページの〔参考：第1次アクションプラン〕も、7ページに第2次アクションプランを策定したということで、ここも第2次アクションプランを載せたほうが良いのではないか。

2点目、11ページから13ページの環境目標の進捗状況だが、グラフにした方が推移がわかるし見やすくなるのではないか。

3点目、この環境白書は誰向けなのか。市民向けだとすれば、130ページの全てを見ることは大変である。市民がどれだけ見てくれるか疑問。

対策として案を3つ考えたが、①細かいデータは全て後ろの資料編に入れて本文をすっきりさせる。②冒頭にサマリーをつけ、ここをみれば大体の生駒の環境がわかる、というものをつける。③環境基本計画と同様に、図表を入れたわかり易い概要版を作成する。これらを考えてはどうか、との発言。

水谷知生会長

事務局の回答を求める、との発言。

事務局

7ページについては、今回の「生駒市の環境」の内容は平成30年度のものである。平成30年度中に第3次環境基本計画が策定されたため、第

3次計画の内容を載せているが、第2次計画についても触れた方が良いのではないかと思ひ、7ページに参考として記載している。アクションプランについても同様である、との回答。

水谷知生会長

令和元年度版は平成30年度の取組が記載されているということでのいか、との質問。

事務局

その通りである、との回答。

水谷知生会長

そうであるならばこのままでいいのか。時期的に遅い気はするが、との発言。

当麻潔委員

市民がこれを見ると第3次ができていのになぜ第2次が載っているのかとなるのではないかと思う、との発言。

水谷知生会長

今年度の始まりに出るのであればこれで良いのかもと思うが、ほぼ1年前のものという感じもする。いつもこれくらいの時期か、との質問。

事務局

いつもこの時期である、との回答。

矢田千鶴子委員

令和元年版の対象期間として「いつからいつまでの期間の環境を評価したものである」ということを、どこかに明記すればわかるのではないか、との発言。

水谷知生会長

見るのは今だけでなく、将来的に1・2年後にも見る機会があると思う。いつまでの状況を評価したものであると期間を記載したほうが良いと思う、との発言。

矢田千鶴子委員

「令和元年度版」というと、一般の方からみると平成31年度の状況を書いていると思われるので、期間の明記が必要。そこを改善いただければ、との発言。

水谷知生会長

1点目についてはいつからいつまでの状況を評価したものであるか、をどこかに記載していただくということでのいか。

2点目は、数字ではなくグラフの方がわかり易いということについて、数字で表しているところとグラフ化されているところがある、との発言。

矢田千鶴子委員

図式化すると絶対値が見えなくなる。使い分けが大事かと思う、との発言。

水谷知生会長

その後の部分も数字とグラフが併記されている部分もある。グラフ化すると数字が分かりにくくなるということもある。全て併記すると分量的にさらに増えて見にくいということもある。サマリーのところはグラフ化したほうがわかり易いと思う。概要版なりサマリーなりどうするのかを含めて検討いただければ、との発言。

事務局

統一した形で一度全体を見直して検討する、との回答。

水谷知生会長

全てをグラフ化する必要は無いが、わかり易く訴えたいことがあるならば、サマリーのところはグラフを載せるなど、整理が必要かと思う、との発言。

あとは、全体を総括する部分が無いのは例年通りだと思う。全体としてこういう状況であるというサマリーを冒頭に入れるくらいであればできそうな気はするが、どれくらいの対応が可能か、との質問。

事務局

内容が多岐にわたっているためうまくまとめられるか即答できないが、何らかの形で対応できるよう考えたいと思う、との回答。

水谷知生会長

内容を見ると、第3章は現状、第2章の環境基本計画の進捗状況部分はデータだけでなく何が進んだのかという内容は書けるかと思う。データ部分を説明するのは難しいと思うが、進捗状況を書いておくと、そこだけ読めば1年間でなにが進んだか、ここはできたがここはうまくいっていないということがわかる。

毎年出るものなので、全体のサマリーは1年間で目標があり、どのくらい到達したのかをまとめて書かれていても良いと思う、との発言。

河瀬玲奈副会長

これは統計書だと認識していた。市民はまず全部は見ないだろう。市民に生駒市の現状を伝えたいのであれば概要版もしくはサマリー1枚は必要だと思う。1枚の表のようにまとまっていると現状がわかると思う。変化、推移を知るには図が良い。図が難しければ上・下などの矢印をつければトレンドとして一目で全体がわかると思う、との発言。

水谷知生会長

伝えたいことをコンパクトにわかり易くまとめる方法やご意見は何か他にあるか、と委員からの意見を求める発言。

現状、どうなっているのかを伝えるツールは白書以外には特に無いのか、との質問。

事務局

その通り、との回答。

水谷知生会長

環境白書的なものとしたら、最初に総説が1枚あったりする。その後にデータ集がついているようなものもある。総説に基本計画の進捗を入れるということも考えられる。要は1年間の取組の評価になり、矢印を入れると結果が明白にわかる。

過去から現状どうなっているのか、まとめたものがほしいと思う、との発言。

事務局

頂いた意見を参考に、検討させていただく、との発言。

矢田千鶴子委員

11～13ページを見ると、PDCAサイクルにはなかなかつながらないデータだと思う。結果は載っているが、どういう課題があるのか、なぜ未達になったのかの理由がないので、次に何をすればいいかが見えにくい、との発言。

上武敏一委員

数字について質問がある。11ページ(2)エネルギー消費量がものすごい勢いで目標を達成しているが、エネルギー消費量が減るということは経済活動が沈滞しているのではないかと捉えている。なにか大きな理由があるのか、との質問。

事務局

外部から提供していただいたデータをもとに作成しているが、電力自由化の関係で新電力会社のデータが入っていないため、減っているということもある、との回答。

当麻潔委員

生駒市のGDPが減っているからエネルギー量が減っているなどはわからないのか、との質問。

事務局

そこまでは出せていない、との回答。

河瀬玲奈副会長

3ページの電力という項目も新電力にアンケートを取ってデータを集めているのかと思っていた。新電力が含まれないなら、注釈の記載が必要。現在、新電力からの購入量が5%～10%、県によっては10数%と移行している。数字を見ると産業部門のデータが大幅に減っている為、産業

が衰退しているのだと誤解を与えることになる、との発言。

水谷知生会長

トレンドを見るにもこれでは見られない。新電力が増えていっている状況であるので、これは注釈が必要なのではないのか。新電力も全てデータを集められるのかという問題もある、との発言。

河瀬玲奈副会長

滋賀県の例では地域内の新電力全てにアンケートを送り、新電力のデータを合わせている。市でそれを行うのが大変ならば、奈良県で行われているのであればその割合から出すなど方策が必要だと思う、との発言。

水谷知生会長

全ての電力消費量ではないのであれば、注釈を入れるほうが良い。奈良県が新電力からの購入量を調べているのであれば、按分して推定値として記載するなど手立てが必要、との発言。

河瀬玲奈副会長

奈良県にもいろいろな市がある。割合が違おうとしても、奈良県の割合はこれだけだという注釈を書いてあればよい、との発言。

楠正志委員

生駒市が目指しているところの地産地消と再生可能エネルギーのウェイトを上げていこうという方針がある以上は、市の電力量が見えるものを示す必要があると思う。環境モデル都市であり SDGs 未来都市であるなら、正確なデータをとってほしい。今回は時期的に難しいのであれば、今年度については一言付け加えるなどお願いしたい、との発言。

事務局

注釈をつけるなど検討したいと思う、との発言。

水谷知生会長

来年以降作成時にも、どのようにデータをとっていくか、データをしっかり示し、どこまで進めるのかをこの中に盛り込んでいくというのをやっていただければと思う、との発言。

矢田千鶴子委員

今回までは旧計画に則ったものである。来年度からは新計画に則ったものとなるので、今回はこの内容で大筋認めて、来年度以降は今出た意見を反映させてもらうということでしょうか、との発言。

水谷知生会長

ちょうどきりが良いという時でもあり、平成30年度分までは旧スタイルで進めるということで、との発言。

当麻潔委員

この冊子は何の目的で誰に対してかを明確にしないと、何を載せるかどんな見せ方をするかが変わってくるので、はっきりさせておいたほうが良いのではないかと。「はじめに」というページを付け加え、その定義に従い資料を作成する。そこをしっかりと定義しておけばいいと思う、との発言。

水谷知生会長

いつの期間のデータか、だれに向けて当然市民に向けてだと思うが、などを「はじめに」などで記載するよう検討してほしい。次回以降は全体の構成を含めて見直していただきたい。サマリーの件も、今回の中でどこまでできるか検討し本格的にやるにしても次年度以降かと思う。市民に読んでもらえるものとして、どのように示すのが良いのかを検討してもらえればと思う、との発言。他の意見の発言を促す。

塩見牧子委員

17ページから18ページ COOL CHOICEの取り組みについて聞きたい。イコマニアイベントに参加したらなぜエネルギー消費が減るのか、との質問。

事務局

クールスポットの活用という意味。イベントに参加し、みんなが1か所に集まれば、個々に使うエアコンの消費が減るという意味で推奨してい

る、との回答。

塩見牧子委員

そこに参加するために自動車を使用すると余計にエネルギーを消費するのではないかと思った、との発言。

事務局

そこまでは想定していないが、できるだけ1か所に集まって過ごす意味で推奨している、との回答。

寺田信弘委員

事業者の立場から、12ページ(5)事業ごみが全然減っていないように思われるが、この表はリレーセンターの受け入れ量など、どのようにでているものなのか、との質問。

事務局

事業系ごみについては昨年度も議論に出ていた。事業活動が活発化すると事業系ごみが増えることもあり、事業者が努力をしなくなるとごみ量が増えているとも限らない、との回答。

寺田信弘委員

会社は5年間置いておかなければならない書類等もあり、数字が入っている書類をリレーセンターに持ち込むこともある。そのような書類をリサイクルしたりペーパーレスにできないかと考えたりしている、との発言。

藤澤清二委員

118ページ 生駒市の火葬場について、大きな煙突がある。以前、煙突からものすごく煙が出ているのを見た。あのように大きな煙突をつけることになぜなったかということに疑問を持つ住民が多い。環境モデル都市なのになぜあんなに大きな煙突が必要なのか、もっと考えられないのか。データも利用状況と使用量の記載があるだけ。将来の展望があれば聞きたいし、また、調査していただきたい、との発言。

事務局

40年が経過しているが長寿命化して、今のスペースで維持管理しているというスタンスである。煙突がないと吐くことができない施設である。もともとレンガ積だったものを地震等でつぶれないようにステンレス製に変えたが、機能的には変わっていないものになっている。煙についても、ダイオキシン等を出さない為に試運転として空焚きする時に水蒸気が出るのが時間帯によってはあると思う。他の煙といわれるとまた検討しなければならない、との回答。

藤澤清二委員

燃料は何を使っているのか、と質問。

事務局

重油と灯油である、との回答。

藤澤清二委員

環境モデル都市としては恥ずかしい、との発言。

事務局

古い施設なのでその形式を取らざるを得ないという状態。検討は市として進めている。現在、「来年こう変わる」とは言えないが、改修にむけて進めていかないといけないという認識はしていることを理解いただきたい、との発言。

藤澤清二委員

住民も火葬場の移転はなかなか通らないことを知っている。それが通るような設備改善を資本を投じてやらないとだめだと思う。まずは現状と、環境モデル都市としてどうするのか、環境白書のなかでも触れて欲しい。

もう一点はごみの焼却場も年数が経っている。ごみが減ってきていると書いているが、どう取り組んでいるのか。キエーロもやっているということだが、データはいろいろ出ているが抜本的に考え直さなければいけないのではないかと思う、と発言。

水谷知生会長

施設の問題なのでどうするかまた検討してほしい、との発言。

- 田中純子委員** 和暦と西暦が混在しており、今後もっとわかりにくくなるのではないかと思う。10ページは併記したほうがわかり易い、との発言。
- 水谷知生会長** 少なくとも基準年と目標年があるものは西暦併記する、なるべく両方入れてもらうほうが良いのではないか。統一を図れるところはしてほしい、との発言。
- 河瀬玲奈副会長** 4ページ ②都市ガスの部分、※2点目「平成28年度から家庭用とその他の切り分けになっている」とあるがどういう意味か、との発言。
- 水谷知生会長
事務局** 注釈の意味を確認してほしい、との発言。
平成28年度まではもう少し細かい区分になっていたものを、平成28年度から2つの区分になった。それにあわせて、平成26年・27年も変えてしまっているので、この表だけみると注釈の意味がわからなくなっている。古いものと見比べた場合は意味があるのだが、この表だけではわからないため修正する、との回答。
- 水谷知生会長
当麻潔委員** 記載不要だと思う、との発言。
都市ガスについても自由化が始まっているので、電気と同様に全体の量を入れないと見えてこない、との発言。
- 水谷知生会長** これは生駒市の全体量では無いので、なんらかの注釈を入れてもらいたい、との発言。
- 片山誠也委員** 90ページから用語解説があるが、脚注ではなくまとめて最後に載せているということか。そうであるならば、読み進めていく中でわからない用語があってもそのまま読み進め最後に記載があるということになる、その都度脚注として表記する、もしくは用語解説に出ているページを書くなどしたほうが良い、との発言。
- 水谷知生会長
楠正志委員** せっかく用語集があるのに使われないともったいない、との発言。
それぞれにアスタリスクをつけ、用語解説にあることを示せばよいのではないか、との発言。
- 矢田千鶴子委員
水谷知生会長
矢田千鶴子委員
水谷知生会長** ページ下に空欄をつくり、用語解説を書いているものもある、との発言。
そうすると同じ用語が何度も出てくるのではないか、との発言。
一度だけ記載する、との発言。
せっかく資料として用語集を作っているのだから、これを活用してもらう為にも用語集に記載があるものについてはマークを付けるなど、工夫してほしい、との発言。
- 杉本稔委員** 載せられるかわからないが、環境関係でやったことに対してどれだけ費用を投資しているのかも書かれていれば、コスト意識も持てるのではないかと思う、との発言。
- 水谷知生会長** 全体の経費は書けるかもしれないが、個別のものは難しいのではないか。費用の話も大事なので、どのように伝えられるか、次回以降冊子を作るときの検討事項としてほしい、との発言。
- 当麻潔委員
事務局** 白書ではないが、2年間の委嘱状をもらったが、ミッションは何でどういうことをするのか、スケジュールをもらえるとありがたい、との質問。
基本的に年1回環境白書の確認。環境基本計画ができているのですぐに改訂することは無いと思うが、例えば条例改正があったり、環境政策の大きな

方向性転換があったりするとその都度開催になる。今年度は今回の1回。次年度以降何回かは今のところ未定、との回答。

当麻潔委員

基本計画は出来上がっているので進捗管理をするのがここのミッションかと思っていたが、審議会ではやらないのか、との質問。

事務局

今後の進捗管理の方法は確定していないが、何らかの形で審議会を通させてもらい意見いただくことは考えている、との回答。

水谷知生会長

環境基本計画の進捗管理は当然この審議会ですべてやっていくものだと思うし、それ以外条例改正等あればその都度開かれる。「生駒市の環境」と進捗状況管理はリンクさせたほうが良いと思う、との発言。

「生駒市の環境」について他に意見は無いか、確認。

今年度の冊子で修正等できるところは対応し、長期的にどう整理してしていくのかは、来年度以降の課題として考えていければということで、事務局のほうで検討してほしい、との発言。

案件2について審議を終了。

案件3「その他」について審議を宣告。事務局に説明を求める発言。

事務局

「生駒市災害廃棄物処理計画策定（案）」について資料に沿って説明。

平成30年度に環境省の災害廃棄物処理計画策定モデル事業に採択され、災害廃棄物量や処理の可能量の推計などの調査を実施していただいた。平成31年3月に調査報告が市に提出され、報告を基に本計画案を策定。

また、この計画についてパブリックコメントを実施し、数件のコメントが寄せられた。このパブリックコメントを修正の中に盛り込み、3月の生駒市議会定例会で報告する予定。大枠は法律に基づいているが、地形や災害に応じて実施計画を作り、より実効的なものにしていかなければいけないと考えている、との説明。

水谷知生会長

他の委員に質問、意見を求める発言。

案件3「その他」について、他に事務局に説明を求める発言。

事務局

SDGs未来都市計画について、資料に沿って説明。

SDGs未来都市の応募時に提案した内容を基に策定したものであること、その全体計画と先導的取組について説明。

上武敏一委員

SDGsは環境だけでなく経済面でもやっていかなければならない。目標8だが、雇用創出が3人から11人だと目標が低すぎるのではないかと。また、環境都市なので人がたくさん来て商工業者が潤うなど、そういうものが経済面の効果である。これはこれでいいと思うが、これからの50年、100年にむけてどうするか。商工業者として経済面でももう少し目標があればいいと思う、との発言。

水谷知生会長

経済・社会・環境の好循環といっている中で、経済面が少し弱いのではないかと。どう表現するかは別として経済面でもどう回っていくかは考えられると思うので、この計画に沿っていく事業の中でも考慮してもらえればと思う、との発言。

河瀬玲奈副会長

5ページ(2)2030年のあるべき姿 となっている。“あるべき姿”なのか“ありがたい姿”なのか“めざす姿”なのか、行政的にこれでというのならば良いが、もう少し柔らかい表現でも良いのではないかと印象を受

けた、との発言。

事務局

SDGs未来都市計画については、内閣府との調整の中で進めている。表現についても他の都市と統一した形式になっている部分もあるため、このような表現になっている箇所もある、との回答。

水谷知生会長

“あるべき”は少しきつい表現かなとも思う。規制するわけではなくプラスのことをやっていこうという雰囲気が出た方がよいかとも思う、との発言。計画はこれで採択された、ということを確認。

矢田千鶴子委員

言葉としては“あるべき姿”と“めざすもの”では目的が違う。“べき”は「こうあらねばならない」「こうある方向性が良い」ということであり、“めざす”は着地点を指すということなので、意識的には低くなると思う、との発言。

水谷知生会長

受け止め方が人によって違うが、この計画はこの表現で作られている。選定されると、具体的なメリットというものはどんなものがあるのか。文書を作って内閣府と調整して、大変な作業はあると思うが、その結果得られるものとは、と質問。

事務局

SDGsというのは生駒市だけでなく国内、全世界共通の目標になっている。市だけがやるのではなく、企業等もやっていく中で目標が17に分かれているので、自分達がやろうとしているところが見え易いかとも思う。生駒市としてはSDGs未来都市計画というものを掲げてやっていくと示すことによって、企業や市民を巻き込んで進めて行きたいという思いがある、との回答。

水谷知生会長

選定されたら交付金が使いやすくなるなど、具体的なメリットはないのか、との質問。

事務局

今後もモデル事業や補助事業があると思うので、積極的に利用していきたいと思う、との回答。

水谷知生会長

案件3「その他」について、他に事務局に説明を求める発言。

事務局

「ゼロカーボンシティ」について資料に沿って説明。

国の呼びかけに賛同する形で、生駒市では昨年の11月に2050年までにCO2排出量の実質0を目指す旨を表明した。今まで行ってきた省エネ・創エネの取組をさらに発展させ、推進させようとするものである、との報告。

水谷知生会長

他の委員に質問、意見を求める発言。

最後に事務連絡はあるかとの発言。

今日は「生駒市の環境」の冊子について色々意見を頂いたので、反映できる部分は反映してもらえればとの発言。

審議会の閉会を宣言。

12時00分 閉会